

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472400280
法人名	社会福祉法人 麗寿会
事業所名	社会福祉法人 麗寿会 ふれあいの家みのり
訪問調査日	平成 19 年 12 月 6 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 28 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1472400280
法人名	社会福祉法人 麗寿会
事業所名	社会福祉法人 麗寿会 ふれあいの家みのり
所在地	神奈川県茅ヶ崎市柳島 1-9-13 (電話) 0467-89-2702

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡 4-2		
訪問調査日	平成 19年 12月 6日	評価確定日	平成 20年 1月 28日

【情報提供票より】(平成 19年 9月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.71 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,780 円	その他の経費(月額)	35,220 円	
敷金	有(200,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 70 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	渚クリニック、茅ヶ崎中央病院、湘南東部クリニック、湘南東部総合病院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周囲は住宅地で、周辺の緑や桜を楽しむことも出来る環境である。家族会や運営推進会議の開催、様々なボランティアや市介護相談員の受け入れなどで、外部との関係をオープンにし、より開かれた事業所を目指している。同一法人の介護老人福祉施設や系列法人が経営する医療機関との連携をはかりサービスを展開し、法人全体として職員研修に積極的に取り組み、実務への反映に努め、職員の資質向上に努めている。利用者は、事業所の祭り「みのり祭」、季節の行事、ドライブ、ボランティアによる大正琴、書道、近隣中学生の来訪、また、同一法人の他の事業所のレクリエーションへの参加などを通して地域との交流を深め、変化のある生活を楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での取り組み事項である、危険物の保管、衛生管理、感染症対策については、全職員で取り組み、改善をはかっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義については、定例会等で管理者から職員に説明し、管理者、職員は今までに実践したケアへの反省や再確認の機会と捉えている。職員も自己評価に取り組むことにより気づきが生じ、日々のケア実践に反映させている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成19年6月に第1回運営推進会議を開催し、事業所の状況報告、地域との協力要請等を行った。運営推進会議には、近隣との更なる協力関係の推進、事業所の諸活動が地域住民の社会資源となるような連携等について、幅広い助言・提言ができるよう事業所として期待している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族への報告は、「近況報告」として、利用者の生活面・健康面・月間行事等の報告に加え、金銭管理明細等を毎月送付している。緊急時の連絡は電話等で行っている。家族会を年に2回開催しており、大体の家族が参加している。家族からの意見、不満、苦情等は個人ファイルに記録し、担当者が処理できない場合には管理者が対応するシステムになっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、外出の際には挨拶や声掛けをしたり、地域の方が犬の散歩の折に立ち寄ってくれる。団地の納涼祭や地域の湘南福祉祭へ参加したり、事業所のお祭り「みのり祭」等を通じ地域との交流をはかっている。また、近隣の中学校との交流や各種ボランティアの支援もある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛する」を基に、事業所独自の「みなさん人生の大先輩(中略)、自分もみのり大家族のひとり、『~したい』を大切に」という、より具体的な理念を全職員でつくり、日々のケアに取り組んでいる。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関内や事務室に掲示すると共に、職員採用時のオリエンテーション、法人研修、月1回の定例会等を通じて、あるいは日々の実践で絶えず確認し合って共通理解をはかっている。職員は利用者の「~したい」を大切にして、サービスの向上に努めている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に賛助会員として加入し、外出の際の挨拶や声掛け、犬の散歩の折の立ち寄り、農作物をもらったりするなど近隣との交流を深めている。団地の納涼祭や地域の湘南福祉祭への参加、近隣の中学校の体育祭への招待や生徒の来訪、各種のボランティアの支援等々と交流は様々である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については、定例会等で管理者から説明し、職員も反省や再確認の機会と捉えている。職員も自己評価作成に取り組むことにより気づきが生じ、日々の支援に反映させている。前回の外部評価での取り組み事項である、危険物の保管、衛生管理、感染症対策については、全職員で取り組み改善している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年6月に第1回運営推進会議を開催し、事業所からの各種報告、説明、協力要請等が議題であった。会議については、近隣との協力関係の一層の推進、事業所の諸活動が地域住民への社会資源となるような連携などの幅広い助言・提言を期待している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的には、市や地域包括支援センターに困難事例の相談や入居状況の報告等で連携をはかっている。定期的には、市介護相談員の受け入れ(月1~2回)、毎年、市高齢福祉介護課主催の介護相談員受け入れ施設と介護相談員の意見交換会に出席し情報交換するなど、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は、「近況報告」として、利用者の生活面・健康面・月間行事等の報告に加え、金銭管理明細等を毎月送付している。機関紙「みのりだより」を発行したときには、同封している。緊急時の連絡は電話で行うことが多いが、ファクシミリやメールで行うこともある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催しており、大体の家族が参加している。家族からの意見、不満、苦情等については、個人ファイルに記録し、対応する体制を整えている。現在のところ、季節毎の衣替えや通院の付き添いの依頼等が寄せられている。重要事項説明書等で、苦情の公的機関の相談窓口を紹介している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の交代があったが、交代の際には、職員間で利用者の言動等を観察し、ダメージを防ぐよう配慮した結果、利用者には混乱なく受け入れられている。その他の職員に関しては異動は殆どなく、利用者との関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員には、実習を含む2週間の法人研修が組まれている。また、毎月開催の定例会で研修の機会を設けることもある。法人として研修担当委員を配置し、年2回様々なテーマで研修会を開催している。外部研修は出張または自主的に参加し、研修成果を報告書にまとめて回覧し、時には定例会等で発表し、職員間での共有化に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茅ヶ崎市介護サービス事業者連絡協議会への加入、居宅介護支援事業者、地域包括支援センター、その他の事業所とともに、認知症に関すること、高齢者向け器具を使っのトレーニングに関する講演や実践発表会等に参加し、勉強会や交流を通じて情報交換をはかり、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して入居できるよう、管理者と職員が自宅や利用開始前に入所している施設・病院等へ訪問し、顔なじみになるように努めている。また、日帰り入居、お泊り入居等の「お試し利用の機会」を取り入れ、雰囲気に慣れてもらうこともある。自宅等への訪問調査等で、環境状況や状態をアセスメントし、家族と相談のうえ本人の意向を確認して決めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者と一緒にいる日常のことで、教わる事も多い。季節の行事のことは、その由来や昔からの習慣等について教える機会もある。訪問調査の昼食時に、職員がテーブルに料理を並べると、利用者から「ありがとう」と感謝の言葉が聞かれ、職員は笑顔でうなづく光景が見受けられ、共に支えあう関係を築くようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの思い、嗜好、生活上の希望について、日頃から本人や家族より聴取している。アセスメントのために、KOMIチャート方式を用いて生活歴、認識面・行動面の能力等の把握に努めている。現在、その方式から、全体像の把握がより容易なICF方式を導入し、徐々に切り替えをしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時のアセスメント等を基にして、計画作成担当者並びに全職員が、利用者とのかわり得た様々な気づきや課題等を持ち寄り、利用者一人ひとりの把握に努めている。担当職員は本人や家族の意向を適切に把握し、カンファレンスを全職員で行い、利用者の状態に合わせた介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は6ヶ月毎に見直している。大きな状態変化があった場合には、本人と家族の意向を尊重して、随時に見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関の内科医の往診の折に、健康に関する相談もあわせて行いアドバイスを受けている。また、同一法人の施設で行われる体操教室やレクリエーションへ参加し交流をしている。病院や美容院等への付き添いにも職員が柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の希望を聞き、入居前からのかかりつけ医に継続して診てもらっている利用者が数名いる。全体的には毎週水曜日に協力医療機関の内科医による往診で、利用者の健康管理に努め、緊急時には協力医療機関と電話相談等をする場合もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、家族の了解のもとに医師と相談して、法人の関連病院へ入院措置を行うことを主としている。常に、まさかの場合を想定して、職員に周知徹底をはかるとともに、連絡網や夜間対応マニュアルを整備している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	訪問調査時の昼食前に、うがいを忘れた利用者へ職員がさりげなく誘導している場面が見受けられたり、利用者の横に座るときには「お邪魔してもいいですか」と丁寧な言葉遣いで、利用者のプライドに配慮している。記録類の個人情報は、事務室の施錠できるキャビネットに保管し、入居時に守秘義務の契約も交わしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはあるが、利用者のペースを尊重している。例えば、利用者の起床時間は6時から8時と幅を持たせるなど様々である。職員は、利用者一人ひとりの「したいこと」、「したくないこと」を把握し、利用者の意思を尊重しレクリエーション等も無理強いはいはしないで希望に添った支援を心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等、利用者にてできる事は、職員と一緒にいき、すすんで片付け等をする利用者もいる。食事も職員と談笑しながら楽しんでいる。日曜日は自由献立にして、利用者の希望で献立を考え、食事が楽しいものとなるように工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を基本にし、足湯は日課としている。夏季にはシャワー浴の希望が多く、随時に対応している。まれに入浴の習慣がない利用者があるが、本人の意思を尊重して無理な入浴は避け、上手に誘導して、健康や衛生の保持に留意している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴などについてカンファレンス等を通じて承知している。職員はそれらの情報を基に、ある時は参加を促して、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。役割りや楽しみごとには、食事の準備や後片付け、食材の買い物への同行、新聞の購読、玄関の日めくりカレンダーの架け替え等がある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物は日課として定着している。手押し車での歩行者が職員の見守りの中での自立歩行が出来るようになった方もいる。また、月1回は近隣へのドライブをすることもあり、年間行事の初詣、平塚の七夕見学等の外出も、利用者の楽しみになっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は鍵を掛けないケアを行っている。徘徊等が心配される利用者は、全職員が把握しており、常に見守りによる支援をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練を実施しており、平成19年は10月に実施し、12月に2回目を予定している。訓練内容は役割分担の確認、避難誘導、消火器の試行、炊き出し等で利用者と職員が一体となり行っている。倉庫には食料品、医療品等が保管されている。近隣への協力依頼については運営推進会議でも働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士の作成した献立を基に食材を調達し、時には、利用者の希望で献立や調理方法が変わることもある。食事摂取量、水分量は利用者一人ひとりのチェック表で記録し、状態を常に把握し、健康管理に役立て支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間兼食堂には、テレビ、大小のテーブルやソファが置かれ、二つの天窓には日よけのすだれが掛けられている。その脇には畳の間もあり横になることも出来る。廊下の壁面を含め、絵画、行事の写真、様々な作品類等が飾られ、親しみ易い雰囲気家庭的である。季節柄、加湿器も数個置かれ、健康管理にも配慮されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>基本的には持ち込みには制限が無く、居室には、使い慣れたベッド、椅子、テレビ、整理ダンス、ドレッサー等が持ち込まれ、家族の写真、レクリエーションで完成させた書道や紙細工の作品類が飾られ、それぞれの好みの部屋になっており、居心地よく過ごせる空間となっている。</p>		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 麗寿会 ふれあいの家みのり
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県茅ヶ崎市柳島1-9-13
記入者名 (管理者)	木村 聡宏
記入日	平成 19年 9月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	何度か職員全体で話し合いを設け、理念作り上げた。それに向かって、その人らしく暮らしていくためのお手伝い、家族への関わりを取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	法人研修、定例会、入職前オリエンテーションにて周知徹底している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	湘南地区社会福祉協議会で毎年行っている福祉まつりに利用者、家族と一緒に参加している。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	自治会への参加はもちろんのこと、地域のかたがたとの気軽な挨拶や、入居者と散歩に出かけたときなど、積極的に地域の方々との交流に心がけている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	運営推進会議においても、地域との連携や行事等への参加については、話し合われている。地元住民の方々の中にもボランティアとして訪問して下さる方がいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年に一度、地域の公民館や集会所などにて地域住民に向けて「介護者教室」を開催し、認知症についての理解を深めて頂ける様にしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月行われる、職員会議(定例会)において、自己評価及び外部評価の実施の意義等については説明をし理解を得られている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運勢推進会議の開催をし、積極的に報告や話し合いを行っている。 また、助言やご意見をいただいた場合についても、改善した点や、取り組みについて説明をしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の事業所連絡協議会への参加。 また、町の委託事業も受託しており、行政や地域包括支援センターとの連携も行っている。 利用状況等についても、随時情報の提供を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護支援専門員の研修や、認知症介護実践者研修などに職員が参加し、学ぶ機会を得ている。		出来る限り、多くの職員が学ぶ機会をもち、限られた職員だけが学ぶ機会を得るのではなく一人でも多くの職員が学び、活用できるよう今後、支援していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政や法人内で開催される研修への参加を職員に促している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時(解約時)については、『契約書』及び『重要事項説明書』の読みあわせを行い、不明な点等については、随時ご説明を差し上げ、理解した上で契約を結ぶようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員の受け入れを行っている。 また、職員一人ひとりが入居者とゆっくりと話すことが出来るよう、傾聴の姿勢を持つように心がけている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の請求書・領収書発送の際に、『近況報告』として、明確に記載し報告を行っている。 職員の異動等についても、出来る限り大幅な職員の配置換え等はないように心がけている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議において、委員に家族の代表者がいる。 また、運営推進会議を開催する際には、御家族への参加の呼びかけも行っている。 家族会を年2回開催しており、ご家族様からのご意見も頂戴している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>法人内では、職員全体会議、事業所内では毎月『定例会』を行い、職員からの意見や提案を聞くことが出来る機会を設けている。 また、法人理事も来所した際は職員との交流にも意欲的である。 行事や、運営推進会議への参加もしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>特に夜間帯などに起こる可能性のある緊急時の対応等については、緊急時対応のマニュアルを作成し、対応することが出来るよう職員の確保をしている。 また、夜勤者は基本的には日中も対応している職員が夜勤を行っている為、日中及び夜間の状態を把握している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動等については、極力最小限に抑えるよう意識し、努力している。 また、職員間でも利用者へのダメージについて敏感に察知し、職員会議等での議論も行われている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まず、法人として研修担当委員をおり、現場職員に対しての研修を行っている。 また、就職時には「ジョブローテーション」(法人内事業所の体験実習)も行っている。 また、必要に応じて随時、OJTを行っている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所連絡協議会へ参加し、地域の居宅介護支援事業者、包括支援センター、その他事業所とのネットワークに参加している。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回ほど、法人本部主催の親睦会を行っている。 また、不定期ではあるが、ふれあいの家みのりの職員で、親睦会を開き、職務におけるストレスの緩和や日頃の疲れを癒すことの出来る時間を設けている。	運営者も含め、管理者が、職員のストレスマネジメントに勤め、日頃から、職員との対話や相談を持つことが出来る場を現状よりさらに多く設けていきたいと考える。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人内において、年2回の人事考課を行っている。 自分自身を客観的に評価するチェック式の項目や、職員個人個人で自分を評価する点について言語化したものを提出、または改善を要する天についても自己評価してもらっている。このことにより、自分自身で目標を設定し向上心を持って働ける環境を整えている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の問い合わせがあった場合、ご本人・御家族に見学へ来ていただくことはもちろんのこと、入居事前にはご本人を訪問させていただいて、お話を伺ったり、ご説明をさせていただいている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の問い合わせがあった場合、ご本人・御家族に見学へ来ていただくことはもちろんのこと、入居事前にはご本人を訪問させていただいて、お話を伺ったり、ご説明をさせていただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、導入時にグループホームでの支援を必要としている状態なのかを、アセスメントし、しっかりと見極め、その方にとってどのようなサービスが有効なのかを見極め、最良の方法を選択することが出来るよう支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の訪問調査などで、ご本人様のすごされている環境を把握し、生活リズムなどについても、出来る限り事前に把握し、サービスを利用することによって、不安や心配を受けることが無いよう、または最小限にすることが出来るよう相談援助には、慎重に取り組んでいる。ホームの見学やお試し利用の機会を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事全般は利用者と職員が一緒に行うようにしている。その他季節の行事や慣習は利用者から昔のことを教えてもらいながら取り組むようにしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外出時やホームでの行事には家族にも声をかけ、利用者、職員と交わる機会を設けている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間には、基本的には規定の時間は設けることなく、御家族が来易い環境づくりに努めている。 また、御家族との外泊や、外出についてもご本人の体調等に配慮しつつも、規制等を設けることなく実施している。 各家族に対し職員が受け持ちを持ち、それぞれの家族関係に合ったサポートを行っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者をなじみの場所にお誘いし、知り合いと会う機会を作っている。暑中見舞いのはがきを送る等、手紙のやり取りの支援をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	集団の中で、利用者の仲の善し悪しに配慮することは勿論の事、入居者同士でのふれあいの場(リビング等)はいつでも集うことが出来るようスペースの確保をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された利用者や家族とは時々面会に行ったり、電話でのやり取りをしている。また、いつでも相談に乗れることを伝えている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや嗜好、生活上での希望等を普段から利用者やその家族に伺いアセスメントツールのKOMIチャートを用いてケアプランに反映できるよう工夫している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし方、生活環境や生活歴について、利用者との会話や家族からの聞き取りで調査し、KOMIチャート等に記している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ICFの視点に基づいたアセスメントを、スタッフ全員で行い、その内容が日常生活に反映することが出来るよう努めている。 使用するアセスメントについては、本人の出来ること・わかることを言語化し、誰が見てもわかるような書式になっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、計画作成担当者のみが関わるのではなく、スタッフ全員で取り組み、家族からの情報、日常のご本人の様子なども組み入れた形でサービス計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な、ケアプランの見直しのほか、お体の状況や日頃の生活の中で、変化が見られた場合は、随時計画の作成を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の、日中及び夜間の記録や、アセスメントから得られた情報、また常時関わっているスタッフからの情報に基づき、介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当方人の他部署における、体操やレクリエーションへの積極的な参加をし、参加の報告などを毎月ご家族様への報告を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議のメンバーでもある民生委員の来訪がある。また、地域のボランティア団体や、個人のボランティアの訪問がある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、適切に事業所以外のサービスとつなげるよう外部のケアマネジャーと連携を図ることが出来るように、地域の事業所連絡協議会への参加をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例や事業所内で解決できない問題があった場合、地域包括支援センターと協働しながら、本人本位の支援につなげることが出来るよう、普段から、関係づくりにつとめている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される時点でご本人及びご家族より意向を伺い、ご本人及びご家族にかかりつけ医の選択をしていただいている。また、必要に応じては転院の相談にのり、ご本人にとって適切な医療が受けられるよう、ご家族にとっては負担の軽減を図れるようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎週、来る医師や法人関係機関の医師との連携をとっており、随時職員が相談したり、場合によっては御家族への助言等もおこなってもらっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当事業所内の他部門に、常駐の看護師がおり、グループホーム入居者との関係も顔なじみ・欲知っている関係であるため、日常の健康管理や、相談にいつでものってもらえる態勢にある。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際、入院先の病院のMSWと小まめに連絡を取り合い、利用者の身体状況・疾患についての情報の把握、今後の方向性などについての検討などを行っている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の健康状態などについては、医師が毎週往診に来ているため、その都度相談し、出来るかぎり早い段階で話し合いを持つことが出来ている。 また、家族に対しての説明、話し合いにも医師が積極的に関わってくれている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者を支えるために、チームの連携、職員の力量、諸条件等を備え、他の利用者への影響も踏まえて対応をしている。 また、今後備えての検討や話し合いも医師との連携の下に行われている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージが、最少となるよう、本人に関わる関係者(特に御家族)の協力を得て取り組んでいる。 また、別の事業所へ転居により、暮らしやケアの継続が保たれるよう、移行先へ事業所での生活状況、個別情報の伝達等、プライバシーには、十分な配慮を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応を徹底している。</p> <p>また、入職時には秘密保持の同意書を全職員に行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常生活は、おおむねのスケジュールは決まっているが、基本的には、入居者それぞれの、「したいこと」または「したくないこと」を尊重し生活していただいている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事の時間や、レクリエーションの時間でも、入居者本人の意思を尊重し、無理強いすることなく、のびのびと生活していただくことが出来るよう支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月に1度美容師が来所し、ヘアースタイルやパーマ、カラーリングなど希望に応じて行っている。</p> <p>また、希望される方は、近隣の理容室へ行かれ、安全に通えるように同行したり、理容室の店員と電話でのやりとりを行ったりしている</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理の全てを入居者にさせていただくことは、現状は難しい状況ではあるが、出来ることは入居者の皆さんにも一緒に行っていたりしている。</p> <p>後片付けなどについても、「やってやるよ！」などと積極的な入居者もいる。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>タバコを嗜好される方には食後等に喫煙所で喫煙していただいたり、本人や家族から伺っているお菓子を家族に持参してもらったり、購入したりしている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いて時間帯や状況を把握し、支援している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者によっては、その日によって入りたくなかったりする方もいるが、無理やり入浴させたり、説得したりすることなく、基本的には、ご本人の意思を尊重し支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入眠のタイミング等については、入居者それぞれ違うので、基本的にはご本人のペースを尊重している。 深夜に、時間の失認等があった場合は、ご本人を傷つけないように、声かけ、誘導を行い、入眠していただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭きや、洗濯物たたみなど、一人ひとりが出来ること、役割を持つことが出来るよう支援している。 テレビの好きな方、歌の好きな方、それぞれのやりたいことを伺い、支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	銀行の金銭管理から、行っている入居者様もあり、個人個人の出来ること・わかることを尊重し支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の気分によって外で過ごせるようにしている。過ごしやすくする為、ホームの外に寝転がれるようなソファを置いたり、その日によってそこから散歩に出かけたりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節折々の外出の計画、実行や、家族と共に参加することが出来る行司の企画運営を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望んだ場合、電話をかけた(番号を押したりの介助をし)できるようにしている。 手紙に関しても、職員が宛先等を確認し、ポスト等へ投函している。 本人宛の文書に付いては直接本人へ渡している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等、訪問時には、居室でお茶をのんだり、談笑したるすることがある。 玄関は、日常は常に開放されており、本人の居室やフリースペースは、気兼ねすることなく訪問者も過ごせるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	過去から現在において、身体拘束を行ったことはない。 入居者の方々の行動に受容している。徘徊や、店頭の危険性のある入居者に対しては、危険等を留意し見守りの体制をとっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は、玄関に鍵を掛けることはしていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	時間帯別に1人は見守りが出来るような業務分担をしている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は鍵のかかる場所への保管を行っている。 包丁や洗剤類などは、鍵のかかる場所への保管を徹底している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々、入居者一人ひとりの状態や体調の変化を、申し送りや記録により職員全体で把握し、事故防止に取り組んでいる。 また、ヒヤリハットの活用も行っている。毎月の定例会議においても、全体で再度認識できるよう周知している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日勤帯においては、マニュアルに沿って適宜必要な対応を行っている。 夜間帯においても、マニュアルに沿って対応・行動している。また、定例会議においても、適宜緊急時の対応に付いて、復習をするなど周知している。また、マニュアルは見やすいところへの掲示をしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で自治会の方と相談し、一緒に消防訓練が取り組めるよう話を進めている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	通常、毎月近況報告にてご家族等への説明を行っている。また、急変等が発生した場合は、即連絡を取る等、連絡を綿密に行っている。 リスク対応についても家族とのコミュニケーションをしっかりと取っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日誌、ケース記録、申し送り等で、勤務していなかった時の事等、スタッフ全員が情報を共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が変わったりする毎に、個別ケース記録へのファイリングや、日誌、申し送り等においても情報の伝達を行っている。 疑問点などについては、薬剤師への相談も行っている。 服薬のチェックシートも活用している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	主に午前中は体操等をほぼ毎日取り組んでいる。 排便等に付いては、チェックシートにおいても分かる範囲内で、チェックを行い把握につとめている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。 また、毎週月曜日には、訪問歯科による歯科衛生士の口腔ケアも行っている入居者もいる。 入れ歯に付いては、毎日の消毒を行っている。自分で出来る方もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量など、チェック表にて把握できるよう支援している。 入居者一人ひとりの情報を毎食確認している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを置き、職員が見ることができるようになっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用の都度、布巾を消毒したり、毎日まな板の消毒を行っている。 食材の管理についても毎日入荷し、新鮮で安全な食材を使用するよう徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りなどに花などの植物が植えてある。 入居者が楽しむことが出来るよう、明るくキレイなホームづくりにつとめている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下など共有スペースには写真や、入居者の皆さんの作品などを展示し、季節感や思い出の写真などを飾り、心地よく過ごすことができるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やフロア(リビング)で過ごされ、入居者の方々が自分の時間を自分なりに楽しむことが出来るよう雰囲気作りにつとめている。 フロアによって、広さは違うが気持ちよく過ごすことが出来るよう環境を整えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具等を持ち込むことができ、本人が心地よく安心して過ごすことが出来るよう支援している。持込の家具に基本的には制限をしていない。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や、エアコン等による室温調節をおこない、入居者の好みに応じて小まめに対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を最小限に抑え、手すりなどを各所に設置し、安全で安心して過ごすことが出来るよう工夫されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声かけのタイミングや、目印などは入居者の必要性に応じ臨機応変に対応することが出来るよう柔軟に対応している。混乱、失敗を防ぐのではなく、そうならないよう職員それぞれが、入居者の状況を把握するようつとめ、支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	のんびり過ごせるよう庭にソファを置いたり、トマトや紫蘇など、家庭菜園を行っている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)